



ヴェリ・アリエフ

NANA通信会員、歴史科学博士

ナヒチェヴァン地方 の要塞都市



紀 元前3～ 2千年紀の時期に要塞都市が出現したウルミヤ、ナヒチェヴァン、カラバフ地域の経済的、文化的発展の新たな段階となりました。南コーカサスに隣接するこれらの地域では、恵まれた自然条件と気候条件に恵まれ、大幅な人口増加に伴い、労働生産性も大幅に向上しており、重要な貿易ルート沿いに重要な工芸品や文化の中心地が誕生し、織物生産、金属加工、陶器、石や骨の彫刻、その他の工芸品が発展しました。これらの地域の住民は主に牛

の繁殖と農業に従事し、コーカサス、中東、西アジアの近隣地域と活発な貿易、経済的、文化的関係を確立しました。

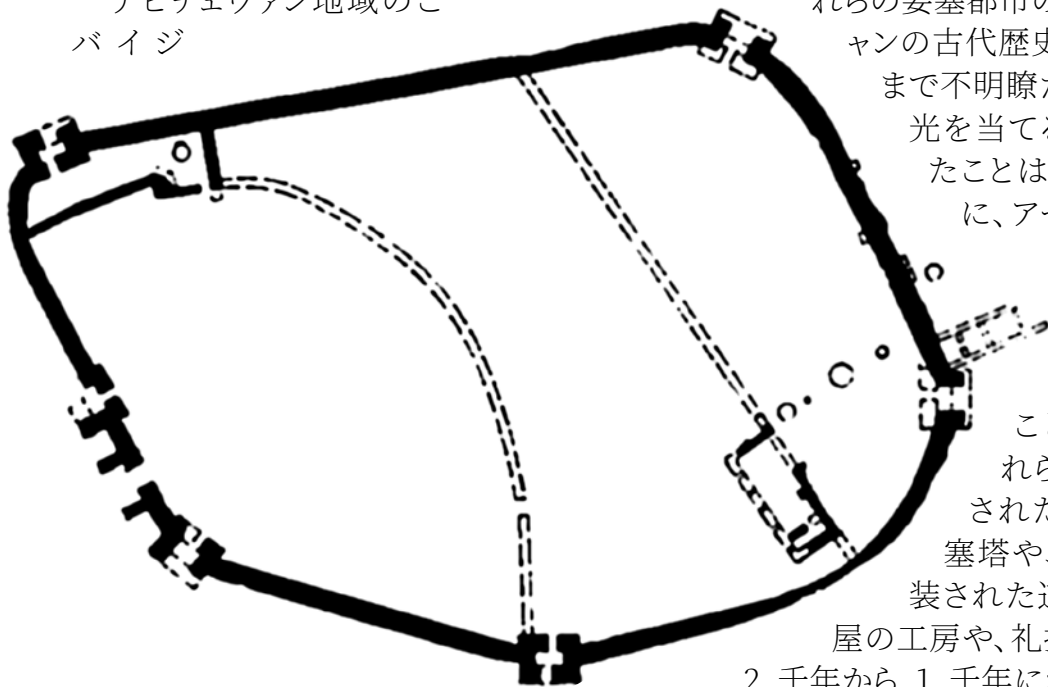
紀元前2千年から紀元前1千年にかけてのこの経済的および文化的発展の過程で 前述の貿易および工芸の中心地に基づいて、要塞都市が誕生しました。アゼルバイジャンでは、これらの要塞都市の多くは紀元前1千年紀半ばまで、また一部は古代、さらには中世までその経済的および戦略的重要性を保っていました。

クルタパ2要塞の再建と計画



アゼルバイジャン領土内の青銅器時代と初期鉄器時代の要塞化された集落と巨大な構造物が、ナヒチェヴァン自治共和国、カラバフ、ダシケサン、ゲダバイ地域で研究されています。ナヒチェヴァン自治共和国の領土内で、著者は紀元前2千年から紀元前1千年、青銅器時代中期および後期と鉄器時代初期に遡れている、クルテペ-2、オグラン・カラ、シャフタフティ・ゴヴルカラ、サダラクとカザンチの要塞、カラチク・カラバグラル、ナハジル、プロフテペ、クズ・カラシの元の都市集落の考古学的発掘を行われました。これらの研究中に、非常に貴重な資料が収集されました。

ナヒチェヴァン地域の
クバイジ



これらの要塞都市の研究により、アゼルバイジャンの古代歴史学と建築史のこれまで不明瞭だった多くの問題に光を当てることが可能になったことは注目に値します。特に、アゼルバイジャンにおける古代都市文化の発生・発展の状況とその特徴を明らかにすることができました。これらの要塞都市で発見された防御構造物や、要塞塔や、内部の要塞や、舗装された道路や、陶器や鍛冶屋の工房や、礼拝堂などは、紀元前2千年から1千年にわたるこの地域の初

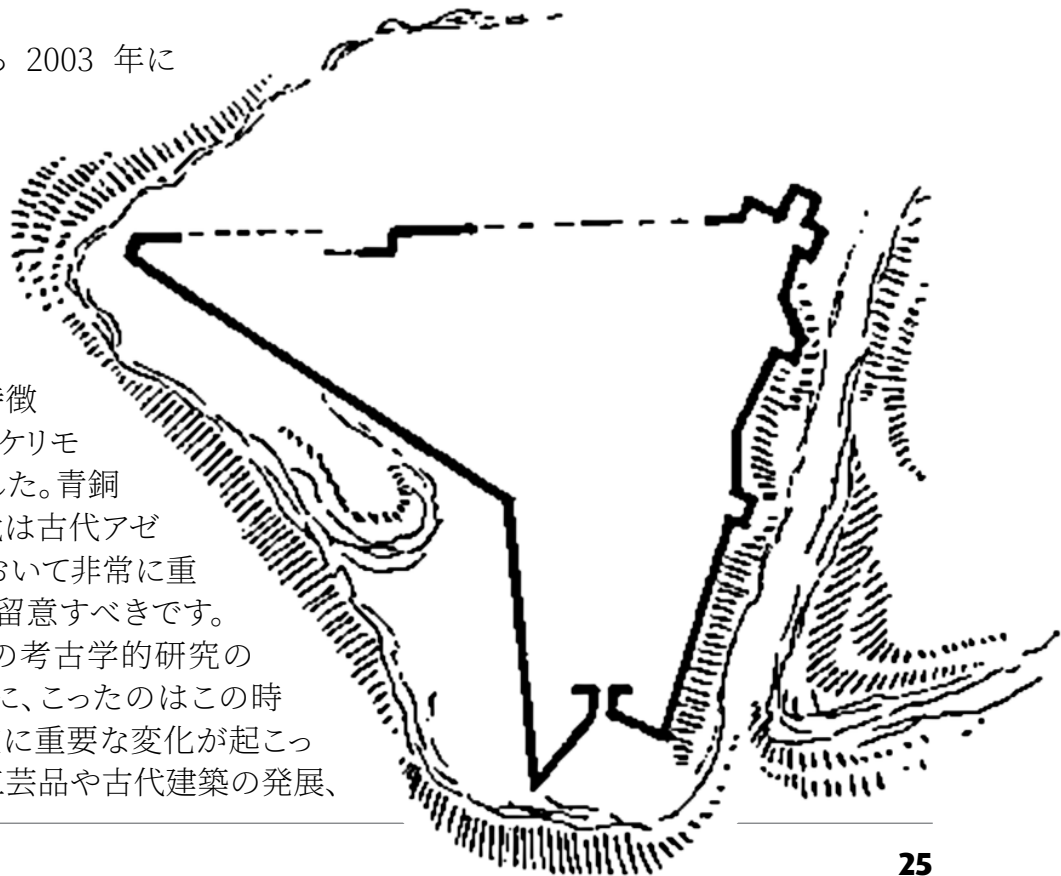
オグランガラ要塞の再建



期国家の発展を証明しています。ナヒチェヴァン自治共和国の領土内にある古代の要塞都市は、1934 年から 1936 年にかけて初めて確認されました。ゴヴルカラとオグラン・カラの集落を発見した著名なアゼルバイジャンの考古学者・民族学者 A.K. アレクペロフです。オグラン・カラ要塞の強力な防御要塞の研究に基づいて、彼は古代のナヒチェヴァン地域の要塞建築について興味深い科学的結論を提示しました。特に彼は、ナヒチェヴァン地域の青銅器時代および鉄器時代の建築とアッシリアの建築との類似点に注目し、オグラン・カラ要塞とアッシリアの山要塞との類似点を指摘しました。要塞で発見された芸術的な装飾が施された陶器製品は、ナヒチェヴァンの絵付けされた陶器の初期都市文化に関連しており、キジル・ブルンの古代墓地から出土した同様の品物と比較して分析されました。

その後、1960 年から 2003 年にかけて、著者の参加のもと、上記の記念碑の考古学調査が行われました。重要な結果も得られました。

ナヒチェヴァン自治共和国の領土にある要塞都市の建築的特徴は、D. アクンドフと V. ケリモフによって研究されました。青銅器時代と初期鉄器時代は古代アゼルバイジャンの歴史において非常に重要な時代であることに留意すべきです。上述の集落や記念碑の考古学的研究の結果から明らかなように、こったのはこの時期では牛の飼育と農業に重要な変化が起こった、さまざまな種類の工芸品や古代建築の発展、





ヴァイキル・ガヴール・カラ要塞の再建と計画



財産の階層化、階級や社会階層の形成に関連した、この地域に住む部族の社会構造における重要なプロセスが観察されました。

20世紀の90年代には、ヴェリダグ市にある要塞都市サダラック、ジュルファ地方のスム要塞とナジャヒル要塞、およびサイクロプスの要塞型建物がナヒチェヴァン自治共和国の領土で発見され、研究されました。これらの遺跡で行われた研究により、この地域の古代の歴史と文化に関する重要なデータを入手することが可能になりました。

ナヒチェヴァン地域の要塞都市は、アゼルバイジャンにおける階級社会、部族連合、初期国家の出現の問題を研究するための貴重な資料となっています。✿

文献:

1. Əliyev V.H. Naxçıvan şəhərinin yaranması tarixi və onun tədqiqi problemləri // Naxçıvan tarixinin səhifələri. Uluslararası qaynaqlarda Naxçıvan beynəlxalq simpoziumun materialları. Bakı, 1996, s. 51-55
2. Əliyev V.H. Azərbaycanca tunc dövrü boyalı qablar mədəniyyəti. Bakı, Elm, 1977, 165 s.
3. Əliyev V.H. Qədim Naxçıvan. Bakı, 1979, 76 s.
4. Əliyev V.H. Naxçıvan ilkin şəhər mədəniyyəti abidələri // Elm və həyat, 1975, № 2, s. 16-19
5. Əliyev V.H. Naxçıvanın qədim qala şəhərləri. Bakı, Elm, 2012, 192 s.
6. Алиев В.Г. Кюльтепе II – ранний город Азербайджана // Археологические и этнографические изыскания в Азербайджане (1973). Баку, 1974, с. 21-23